

納品伝票エコシステムについて

ウイングアーク1st株式会社 / 株式会社TSUNAGUTE

2021.6.3

はじめに

加工食品分野における物流標準化アクションプラン策定後の伝票関係の動き

■ 同アクションプランでは紙伝票の標準化例を提言

(参考) 加工食品分野における物流標準化アクションプラン抜粋

P.6 2-1 納品伝票の標準化

「納品伝票は各社が独自に必要な項目を設計してきており、その結果、伝票サイズや複写枚数、記載内容が異なっている。そのため、納品伝票発行時の事務作業が煩雑になることや、積み込みや納品作業等の現場作業時に商品と伝票の確認が煩雑となっている。そのため、最終的には電子化を目標とするが、将来の電子化を前提とする効率化を検討し、納品伝票の標準化を行い事務作業や検品作業等の負荷軽減を図る。」

■ しかし現在、既に加工食品分野でも伝票電子化システム開発・サービス展開の動き

- ウイングアーク 1 s t 株式会社の例 (→スライド 2)
- 株式会社TSUNAGUTEの例 (→スライド 3)

■ 納品伝票サービス関連各社による連携の必要性

- 複数システムが併存する場合でもユーザーの利便性を確保するため、電子化伝票における標準化の課題を、サービス黎明期からあらかじめ考慮・解消することが必要。
- 電子化伝票の標準フォーマットで相互にデータが循環する仕組み（納品伝票エコシステム）を構築 (→スライド 4)

伝票電子化システム開発・サービス展開 [ウイングアーク1st]

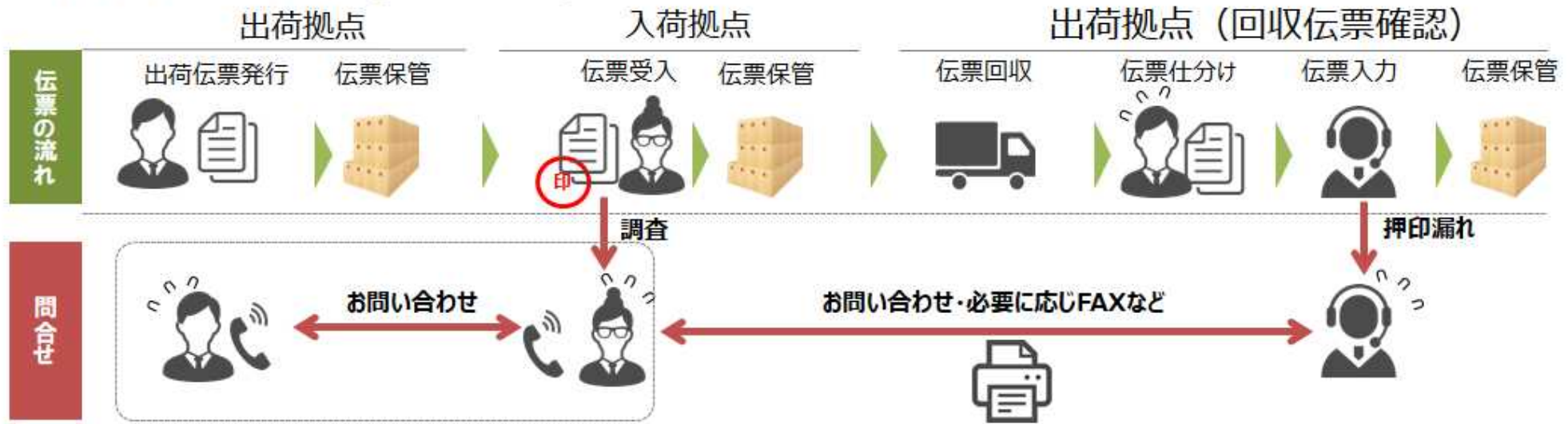
■ 現行の納品書をデータ化して、ペーパーレスで受領、修正、参照、保管します。



弊社は、製配販にまたがる下記活動の実証実験に参画して、本システムを開発しております。

- 国土交通省 荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン
- 加工食品業界 伝票電子化プロジェクト（国土交通省モーダルシフト等推進事業 補助金事業）
- デジタルロジスティクス推進協議会 納品伝票分科会

■現在の業務の流れ (BEFORE)



■納品伝票電子化後の業務の流れ (AFTER)

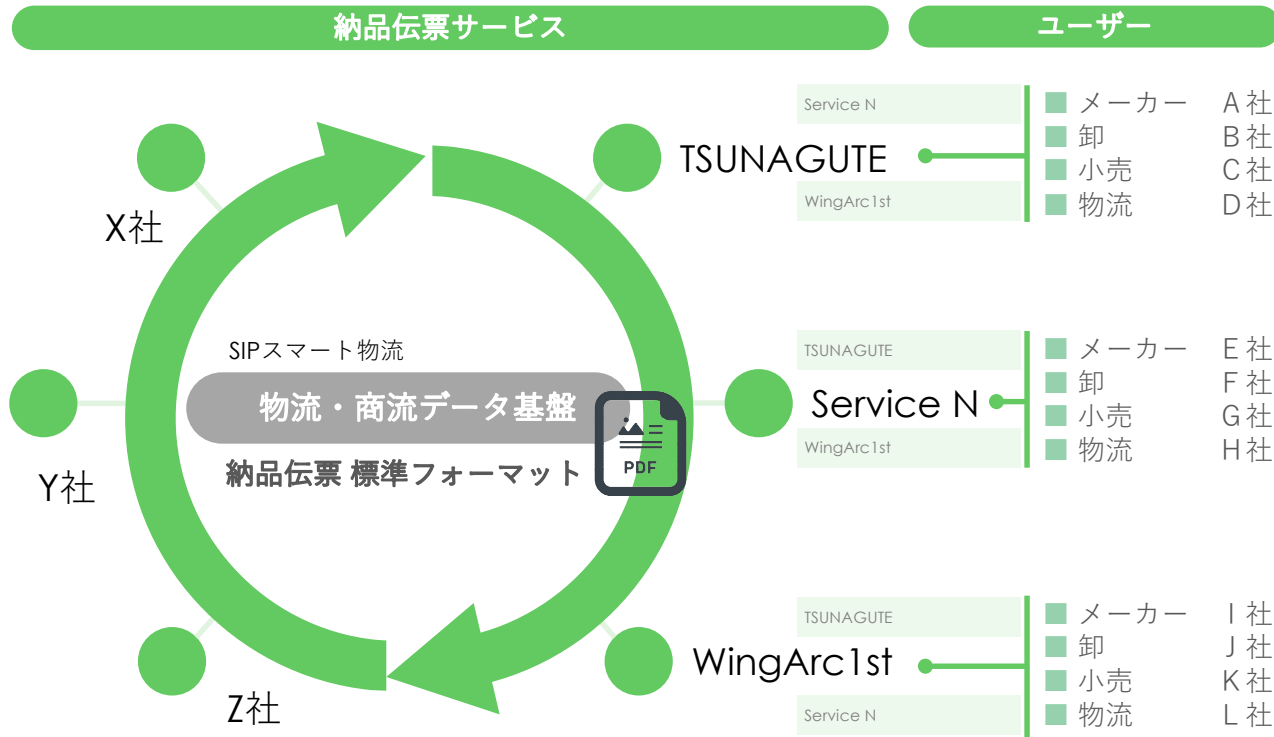


納品伝票エコシステムについて

■ 納品伝票サービス関連各社が、標準フォーマットで相互にデータが循環する仕組みを検討

● 納品伝票エコシステム

どの納品伝票サービスを選んでも、各社のデータが見られる仕組み



● ユーザーメリット

課題

相手先が使用しているシステムを考慮しなければならない



多画面での操作、バラバラなデータで、業務負荷がかかる

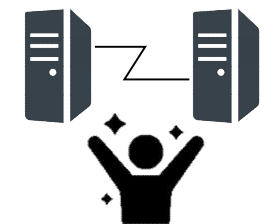


解決イメージ

シンプルなインターフェースで、必要なデータにアクセスできる



データ一元化が進み、システム間連携によって、業務自動化が進む



END